

2006 春季生活闘争開始宣言

日本の景気は完全に回復基調にあり、企業業績は空前の伸びを示しているといわれているが、企業規模・業種・地域間の格差がますます拡大し、社会の二極化が進展する中で、労働者は景気回復の恩恵を受けることもなく、可処分所得も目減りを続けており、あいかわらず厳しい生活環境から抜け出せないままである。

経団連は、自らが唱えてきた「生産性三原則＝労働者への成果配分」の論理をもかなぐり捨て、賃金抑制攻撃を行うとの基本スタンスを変えていない。

連合は、景気回復の状況を背景に、今年こそ、労働者に報いる公正な分配すなわち賃金引上げの実現をめざして、全構成組織が全力をあげて取り組むことを確認し、本格的な取り組みを開始している。

「みんなのはたらき みんなに分配 幸せの底上げを」

2006 春季生活闘争の大きな目標は、このスローガンが示すように、組織労働者の頑張りでも組織労働者を含めた全ての勤労者の生活改善・賃金改善をめざすことにある。

同時に、公正なワークルールの確立、男女平等の働き方の実現、不払い残業の撲滅、労働安全衛生の強化など、職場点検活動をふまえた職場改善闘争を強化していくこととする。

また、小泉自公連立政権がもくろむ「サラリーマンを狙い撃ちにした大増税路線」を絶対に許さないとの決意のもと、全国の仲間と連携して積極的な取り組みを展開する。

2006 春季生活闘争は、勤労者自らの生活をかけた闘いである。全ての組織が「春闘要求書」を提出し全力で闘う。

以上 宣言する。

2006年2月17日

連合沖縄 2006 春季生活闘争開始宣言集会